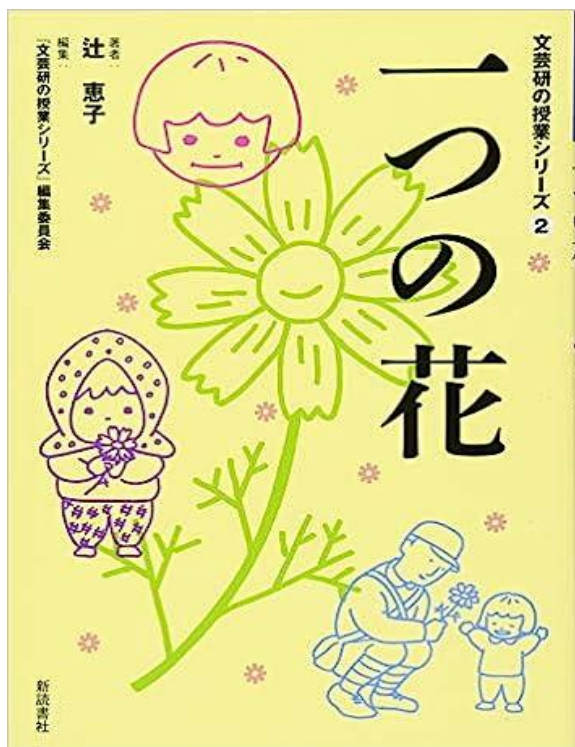


■第 79 回八王子文芸研基礎講座のご案内

「一つの花」で何をどう教えるか

戦後 80 年、今こそ平和教育を



↑文芸研の授業シリーズ「一つの花」新読書社 2016

学習会でも準備しています。1000 円

コスモスの花の象徴性

題名の「一つの花」、別れの場面、クライマックスの〈コスモスの花〉、戦後の〈コスモスのトンネル〉の形象の深い意味づけこそ子どもたちと語り合いたいものです。

8月29日(金)18 時～20 時

八王子市立高嶺小学校(オンライン参加可)

講師：上西信夫(前文芸研委員長)

■八王子文芸研基礎講座【連絡先】

世話人：小松小百合(八王子市中学校) ☎waratte.everyday@gmail.com

参加希望は小松まで。(参加費 300 円)学習会で取り上げたい教材希望をお知らせください。

視点をふまえた確かな読み

「一つの花」の最大の特徴は、一貫して語り手の《外の目》で語られているということです。そのことは語り手と共にゆみ子一家を側で眺めていく目撃者体験をくぐることでもあります。視点のあり様が、発問を方向づけ、子どもたちの文芸体験を豊かな深いものにしていきます。

「一つの花」における戦争の本質と人間の真実

視点をふまえたイメージ体験によって、もの・ことの織りなす形象の相関から、「一つの花」における戦争の本質と〈ゆみ子〉の姿から人間の真実に迫ります。